

令和5年度の

まちづくり

重点政策と予算状況

一年間のまちづくりの方針を示すのが町政執行方針です。

そして、それを実行するために必要なのが予算です。

その内容を審議する町議会第1回定例会が3月8日から14日まで開かれ、予算案などが議決されました。

今月号では、若狹靖町長が初日に行った町政執行方針、滝川敦善教育長が行った教育行政執行方針、そして令和5年度予算の概要をお知らせします。



町政執行方針

厚岸町長
若狹
靖

はじめに

令和5年厚岸町議会第1回定例会の開会に当たり、町政執行に関する私の所信を申し上げます。

昨年9月、厚岸大橋開通50周年を記念して『厚岸大橋を歩いてみよう』を実施、154人の参加者のうち、子どもたち30人の姿がありました。私は、厚岸の未来をつくる子どもたちの参加に感慨深いものを感じたと同時に、子どもたち誰もが『夢に向かって、頑張れば叶えることができる』という気概を持つきっかけになることを念じてやみませんでした。

この厚岸大橋架橋の夢は、明治45年、6代目厚岸町長の末松茂氏が発した『厚岸町発展策』で構想を掲げて60年後の昭和47年に竣工されました。道のりは、決して平坦ではなく、昭和30年、北海道は架橋調査を実施するも、海底地盤が軟弱で架橋の夢はやむを得ず中断せざるを得ませんでした。しかし、先人たちは決して諦めることはありませんでした。不安にたゆむことなく、敢然と立ち上がり架橋運動をさらに展開していったのです。

その熱意と真情に接し、北海道は再調査の方針を示され、昭和42年についに岩盤に到達、その不安を消し去ることができたのです。多くの困難を乗り越えてきた先人たちの前向

きな想いが、今日の厚岸を築いてきたのです。

私自身も、難しい課題や困難に直面した時、先人たちの高い志と敢然として新しい道を切り拓いていくという精神を思い起こし、勇気づけられました。

今、長期化するコロナ禍の影響に加え、気候変動やロシアによるウクライナ侵略を契機とした物価高騰、為替相場の急激な変動など、国は時代の転換点を迎えています。

目まぐるしく変化する社会情勢の中、厚岸のまちづくりをさらに前進させるためには、私の強い政治判断が何よりも重要であります。

変化の激しい時代だからこそ、その変化に対応すべき課題は何か、変化の中にあっても守り抜く強みは何かをしっかりと見極め、先送りできない課題にも真正面から向き合い挑戦することで、『めざすまちの姿』の実現に向けて前へ前へと推し進める決意であります。

町民の皆さんと共に、現在、その未来に向かって、さらなる厚岸の発展のため、自信と誇りを持って、全身全霊で職務に邁進してまいります。

町政に臨む基本姿勢

本年度は、残すところ2年となった『第6期厚岸町総合計画・前期行